

<書 評>

リハビリテーション医学講座（第4巻）

中村隆一 編

神経生理学・臨床神経学

才藤栄一（国立療養所箱根病院）

このシリーズは、待望の PT・OT 向け教科書である。その中で神経生理を中心に扱ったものが本書であり、編者は、リハビリ分野の神経生理では第一人者の中村隆一教授で、紹介の必要はないだろう。

リハビリにおける神経生理は、運動、認知、学習など従来の神経学の教科書ではあまり重視されていない（というよりは不明確な点が多いため記載が少ないのだろう）部分が、却って重要となっている。つまり、従来の、医学生が習う神経学の教科書では、PT・OT の学生にとって、

役に立たないのである。その意味で本書の意義は大きい。内容は、大きく2編に分かれており、第1編が神経生理学、第2編が臨床神経学となっている。第1編では、神経系の構造、細胞膜の性質から、筋肉、反射、そして行動の制御まで述べられており、また第2編では、古典的な神経学診断から、運動発達にまで及び、リハビリに必要な神経生理、臨床神経を全て網羅してある。記載は簡潔だが、例えば神経因性膀胱では自己導尿法に触れるなど、重要な点が押えてある。ただし、読み物としての

面白さは、その性質上なく、適切な講義を必要とするだろう。

神経生理学は、今後、リハビリ医学上、最も重要な分野に発展していくだろうし、その際には、PT・OT・医者など、リハビリスタッフが共通の基盤を持つことが必須となるだろう。運動学習など複雑な過程も、まずは還元論的に説明する努力が必要であるし、全体論的にしか説明できないにしても“飛距離をのばす〇〇式ゴルフスウィング理論”等の俗説以上には“科学的”でなければならぬのである。Dynamic な神経生理学へ近づく第一歩として本書が、リハビリスタッフの間で利用されることが望まれる次第である。

最後にひとつ、欲を言えば、参考文献をもう少し細かく示していただきたいかった。

（A 5, 198頁, 1985年, ¥ 2,600
医歯薬出版 刊）